

Economic Indicators

発表日:2020年6月1日(月)

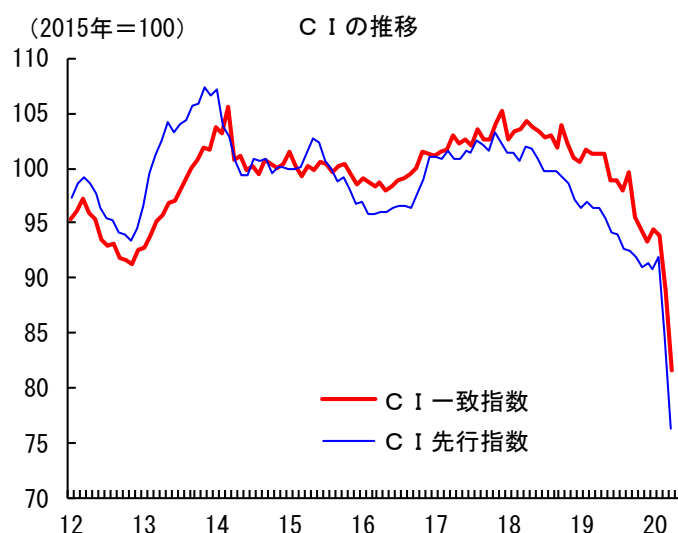
景気動向指数(2020年4月)の予測

～単月では過去最大の落ち込みに～

第一生命経済研究所 調査研究本部
 経済調査部長・主席エコノミスト 新家 義貴
 (TEL:03-5221-4528)

内閣府から6月5日に公表される2020年4月の景気動向指数では、C I一致指数を前月差▲7.4ポイントと予想する。リーマンショック時の19年1月(▲6.4ポイント)や東日本大震災のあった11年3月(▲6.3ポイント)を超え、単月の悪化幅としては過去最大となる見込みである。景気が足元で急激に落ち込んでいることを改めて確認させる結果になるだろう。緊急事態宣言発令後、外出自粛や営業自粛の動きが強まったことで個人消費が急減し、小売業販売額や耐久消費財出荷指数等の消費関連系列が急低下したほか、海外経済の急速な悪化に伴う輸出の急減で、鉱工業生産指数等の生産関連系列も大きく悪化している。加えて、雇用関連系列(有効求人倍率)も大幅に低下するなど、雇用にもこうした景気の急激な悪化の悪影響が及びつつあることが確認できる。

製造工業生産予測指数では、5月が前月比▲4.1%と悪化が見込まれている。C I一致指数は鉱工業生産の動きと連動する傾向があるため、5月のC I一致指数も悪化が続く可能性は高いだろう。6月には緊急事態宣言解除に伴う自粛の緩和によって持ち直しが見込まれるが、4、5月の悪化分を埋め合わせることはできない。4-6月期の景気が記録的な悪化になるとの見方を変更する必要はなさそうだ。



(出所)内閣府「景気動向指数」

(注)直近の2020年4月は第一生命経済研究所による予測値

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

